



Assumption

School Report

聖母被昇天学院 学院報

No.12

2011/03/11

Kindergarten

Primary School

Junior & Senior High School





Assumption Kindergarten

友だちがいっぱいできて、いよいよ3学期
みーんな、大きく、たくましくなりました！



園児たちはなかよしのお友だちと2人組になっておもちつき。重くて大きな杵ですが、力を合わせてペタン、ペタンつきました。今年約100kgのもち米が用意され、おじい様やお父様、お母様はもち米を蒸したり、ついたり休む暇もないほどがんばってくださいました。できあがるまで、先生からもち米のお話を聞いた園児たちは、ちよっぴりもの知りになりました。そして、今年も本学院小学校の1年生が応援に来てくれて、なぞなぞや〇×ゲームをして遊びました。できあがったおもちのフワツと温かくておいしいこと。また一緒におもちつきをやりたね！お手伝いして下さった保護者のみなさま、どうもありがとうございます。

小学1年生のお姉さんと
ゲームもしたよ！

おもちつき
2011年1月13日(木)



なかよしコンサートが
2年ぶりに開催

なかよしコンサート
2011年2月8日(火)

3学期のビッグイベント「なかよしコンサート」が第一体育館で開催されました。今年初めて2クラス合同で取り組み、縦割りクラスで取り組むコンサートでは、満3歳児～年長児までの4学年が大きな舞台に立ち、歌や合奏を披露しました。応援してください大勢のお客様に園児たちはちよっぴり緊張していましたが、大きな拍手をいただいて大喜び。音楽の楽しさや自分たちのがんばりを見ていただくことの快感を小さな体いっぱい感じているようでした。「なかよしコンサート」で、さらにクラスの絆が深まりました。保護者のみなさま、本当に温かい眼差しでご覧いただき、ありがとうございました。

今年はおんもの
雪山(六甲山)に大喜び

年長児・雪そりあそび
2011年2月14日(月)

年長児が六甲山人工スキー場で元氣よく雪そりあそびを行いました。いつもはサラサラの人工雪だけど、この日は六甲山にも雪が降って本当の雪山となり、雪そり専用のゲレンデもホンモノの雪に覆われて真っ白です。ふわふわの雪に園児たちはキャーキャーと大はしゃぎ。1人でカッコよくイスイスすべったり、ペアでそりを連結したりして思う存分遊びました。いっぱい遊んだ後、みんなで食べたカレーライスが最高においしかったね。





好きなことだから、一生懸命がんばれる 個性を生かした講座やクラブの活躍を紹介。

アサンプション
アフタースクール

興味がふくらみ、それぞれの
『真剣』が伝わってくる

小学校では、放課後の課外活動として専門講師に来ていただき、「華道絵画・造形、書道、そろばん、礼法、手話」の6講座を開いています。

●書道

佐藤寛心(財)毎日書道展会員、
ガラス書普及協会監査、
日本書作研究連盟無鑑査、
寔coeur代表

1年生から毛筆を始めますが、「お稽古」「習い事」であることを常に意識させ、「墨を使う」という緊張感が集中力を高めています。児童は、文字を書くことの基本を身につけ、書いたものを展覧会に出品することで、個々の可能性が引き出され、達成感を味わっています。

●そろばん

肥田敏志(大阪珠算研究所指導員)
計算の正確さはもちろんですが、わからない問題を解きながら、自分で考える力が身につけられるのがそろばん

んの醍醐味。講義中はクラスに関係なく、みんなで問題の計算方法を教え合うという微笑ましい雰囲気、40分があつという間に過ぎるようです。

●手話

追永章子、寺田道子、山田まゆみ

〔箕面市手話サークル「にじ」の会員〕
手話は視覚言語なので、まず人と向き合うことが大切。そして、自分の手話を相手にわかるように見せなければなりません。そのため、相手の話を聞くようになり、豊かなコミュニケーション力が身につきます。児童たちはいつも真剣な表情で取り組み、手話歌の時も興味を持って楽しく学習しています。

●絵画・造形

内本久美(日本メデイカル福祉)

専門学校非常勤講師)

児童が心に描いた「思い」を思い切り表現できる場として開講しています。2年生が1年生にやさしく声をかけたり、1年生が2年生に質問したりと、芸術を通して自然に異学年交流ができており、講座中はいつも和気藹々。ずっと続けて受講している児童も多く、毎回楽しみにしているようです。



●茶道(裏千家)から学ぶ礼法

熊田宗知(茶道裏千家教授)

お茶の心「和敬清寂」を基本に、静かに自分を顧みる時間を持ち、あいさつの仕方、他者への思いやり、ものを大切にすることを育んでいます。3学期に入ると受講生全員が姿勢正しく静かに座ることができ、早く来てお点前の準備を手伝ったり、さり気なく乱れた靴を整えたりできるようになった児童も多くなりました。

●華道「小さないけ花」

元野久美子(池坊華道教室教授)

草花をより長く、美しく保つための生け方、やさしい扱い方を通して命の大切さを学びます。また、自分の個性を生かして、かわいい花たちを楽しくいける喜びを感じます。花の名前もたくさん覚えた児童たちは、毎回の花材との出会いを楽しみにしており、持ち帰ったお花にお家の方も喜んでおられるようです。





卒業しても忘れないでください。
ここがみんなの「ふるさと」です。

Assumption Junior & Senior High School

2011年2月18日「第46回高等学校卒業式」

卒業感謝ミサ

前日から降り続いた雨も止み、時折ステンドグラス越しに陽光が射し込む聖堂で、学院生活最後となる卒業感謝ミサが行われました。おそろいの白いリボン髪に飾った生徒たち。お世話になった教職員やシスター、在校生、保護者に迎えられて入場してきました。いつものように入祭の歌から始まったミサですが、今日ほどの顔もちよびり寂しそうに見えました。

司祭は、部屋をいつも片付けている兄と散らかしている弟を例に、「兄は百科事典を買っても汚れるのが嫌で子どもたちにも読ませなかったが、弟は出しっぱなしにしていたので子どもたちはいつも読んでいたためもの知りになった。みなさんが先生方から教えられたことは毎日「使うもの」であり、きれいに片付けないで自分のものにしてください。それが卒業することです」と話し、みんなを祝福してくださいました。

卒業証書授与式

卒業感謝ミサの後、講堂で第46回卒業証書授与式が行われました。

中山カナ子学院長は「人は神様によって創造され、古い自分から新しい自分へ、死に至るまで成長は続きます。みなさんも大きく成長してください。もし苦しみや悲しみに直面したら学院に戻ってき」と、中戸校長先生は高2の修学旅行でのゲームを挙げ「各グループで自分には見えない背中文字を並び替え、一つの言葉を完成させましたね。社会に出て自分だけでなく、他者を思いやって生きてください」と話されました。

在校生代表の小北真緒さんは「いつも支えてくれた先輩たちは卒業しても私たちの家族、みなさんの未来が幸せであるよう祈っています」と送辞を読むと、岸本彩さんが卒業生を代表し、「この学院で私たちは、目に見えるものだけに与えられない善を見つめる大切さを学びました。ここで学んだことに誇りを持って生きていきます」と涙で答えました。46期生49人は、それぞれの夢や希望に向かって今、学院を巣立ちます。

卒業記念パーティー



卒業式に引き続き、講堂で開催されました。これは卒業生が教職員やシスター、保護者を招待するという茶話会スタイルです。みんなで楽しくおしゃべりをしながら食事をする中、ステージでは卒業生有志により、軽音楽やハンドベルの演奏、エネルギッシュなダンスパフォーマンス、コーラス、クイズ大会などが行われました。

なかでも、マウスを使って指定された動物の絵を描いてステージ上に映し出し、みんなで当てるというゲームでは、生徒だけでなく先生方もすばらしい迷いを披露。ピカソもびつくりのアートに最後まで答えが迷走し、大いに盛り上がりました。退職された先生方からのビデオレターには、帰国されたウィルソン先生も愛児（赤ちゃん）と共に母国から参加。最後はみんなで大合唱し、46期生の思い出がいっぱいあったパーティーは、予定時間をオーバーしてもいつまでも続きました。



小学校ミニバスケットボール部が大活躍



みんなの力が結集し逆転勝利に導いた

2月13日(日)、池田市の五月山体育館にて被昇天ミニバスケットボール部が、池田Jr女子を対戦相手として、大阪エヴェッサの前座試合に出場しました。試合は1クォーター5分×4回で行われ、前半は苦しい展開が続いたものの、後半から被昇天のチームらしさが炸裂。全員でゾーンディフェンスを守って反撃し、ついに勝利を獲得しました。

試合前、互いに今までやってきたことを出し切り、この場を与えてくださった方々に感謝して、めいっばい楽しむことを確認し合った部員たち。逆転のためにシュートを打ち続ける勇氣、最後までボールを追いかける真剣さが一つになってディフェンスに取り組みました。ベンチからの声援や保護者の方々のバックアップに後押しされ、『そのときの最善の努力』が結果につながりました。

各種表彰一覧

(小学校 表彰)

- 日本語検定協会東京書籍
最優秀賞受賞6級
5年 有貞優彩



- 第38回バントワーリング
全国大会金賞受賞
6年 山品ひかり



- 箕面ライオンズクラブ主催
国際平和ポスターコンテスト優秀賞受賞
5年 谷口知佳



(箕面市教育委員会 平成22年度箕面市青少年健全育成功績功労者表彰)

公式の場で全国水準の記録を出し、他の模範となる者として、2月19日に本学院の生徒がささゆり褒賞を受賞いたしました。

- 第57回NHK杯全国高校放送コンテストの成績に対し

- 高 3B 寺西陽菜
- 高 2A 綿谷美恵
- 高 2B 前蘭真菜
- 高 1B 藤原悠希

- 第27回NHK杯全国中学校放送コンテストに対し

- 中 3A 田辺薫佳
- 中 3B 伊藤弘実
- 中 2B 栗野佑香
- 中 2B 白河巳桜子
- 中 2B 鄭藍織

- 第14回ハンドベル世界大会出場に対し
ハンドベル

- 第33回全国JOCジュニアオリンピックカップ
夏季水泳競技大会に対し
中 3B 吉田花梨(シンクロナイズドスイミング)

- 高円宮杯第62回全日本中学校英語弁論大会
大阪府大会の成績に対し

- 中 1A 中越采子
- 中 1B 高柳薫杏



※誌面の都合上により表彰された全ての生徒の名前を掲載することができませんでした。ご了承ください。

中学校高等学校

クラス代表による自治活動 ～ある日の「級長会」～

それぞれが全力で自分の果たせる役割をまっとう

中学校高等学校には、生徒会長以下4名の執行部を中心に、級長会、評議会、保健整備委員会、学院祭実行委員会、体育競技会・球技大会実行委員会、選挙管理委員会、新聞委員会など、各クラス内の選挙で選ばれた委員たちが集う自治活動母体があります。高等学校の卒業式を控え、任期を終えようとしている2月7日の「級長会」取材しました。

級長会には各クラスの代表として級長と副級長が出席。委員長(高2)の「起立、礼」を皮切りに、授業中の規律や、教室内の整備状況などについての現状報告から行われました。黒板には、各クラスから出される諸問題や、前週からの課題にどう取り組んだかなどが書かれており、生徒たちは意見を言ったり先輩からアドバイスを受けたりしていました。

終了後、今年度を振り返って印象深いことを聞いてみると、高2は「北海道スキー修学旅行」を終え、最終学年に向かう決意を新た

にしたと、高1は「毎日が楽しかった」と話してくれました。中3は「沖繩修学旅行」の楽しい思い出とともに、協調面でいろいろ考えることがあったと反省も忘れません。中2は「体育競技会」で、中1は「初めての学院祭」でクラスが一つになったようです。そして、共通するのがクラス代表として集団をまとめる苦労を経験したことだそう。今後もそれぞれが自身の行動をふり返り、果たせる役割について考えていってほしいと思います。



ここでみんなに出会えた 奇跡をずっと大切にしたい

上杉鈴栄先生・島上きく先生(1期生)



「教師生活を終えて」

上杉鈴栄先生

図書館が元短期大学の北館へ移動するとき、我々教職員がレイアウトやインテリアを提案し、現在の形にしていたことが一番の思い出です。人目につかず、一人になれるスペースも作ったので、時にはつらいことや悲しいことがあった生徒が心の癒しを求めて来てくれます。我々教職員もその生徒が心地よく過ごせるよう気遣っています。

シスターの人柄にひかれ 迷わずこの学校へ

——上杉先生は本学院の図書館司書 島上先生は英語教師として長年勤められ、今年度定年を迎えられたお二人は、記念すべき中学校・高等学校の1期生。お互いの第一印象は？

上杉 島上先生は小学校から上がってきたので、中学から入った私にはとっても優等生に見えました。

島上 ボオーっとした優等生よね(笑)

上杉 いえいえ、なんでも1番の優等生！

島上 実は何でも2番だったの。国語でも数学でも1番の子は必ず別にして私は2番。平均したら1番になっただけ(笑)。上杉さんは名前の鈴栄どおり、鈴を鳴らしたようなかわいい声だと思った。今もかわいい声よ。

上杉 ありがとう。私たち1期生は、別に押しつけられたわけではないのだけれど、何かにつけて自分らで学校を作っていくかなければならないという気概がいつもあったわね。だけど、まだなんの形もないこの学校に入れた私た

ちの親ってすごく勇気のある人だったと思わない？

島上 ホントね。私は小さい頃、体が弱かったので大人数の学校に入れるのは心配だったみたい。しかも、根本的に自分たちと価値観が合う学校を探していたところ、ここに来てシスターにお会いし、教育理念を聞いて「ああここにしかない」と思ったそうよ。

上杉 うちも同じ。この学院に預けたら大丈夫だと思っただけ。とびきり美人のシスターに「お入りなさい」と言われて、親子ともども「ハイ」と返事をして入ったの(笑)。私も親も不思議なくらい

不安はありませんでした。

——シスターとの思い出は？

島上 小学1年から刺しゅうの時間があり、イタリア人のおばあちゃんシスターに教えてもらってました。だけど私たちが下手すぎて、見せると「ダメ、ダメ」って何度もほじめてしまわれるので糸がよれよれになってしまふの。それで「換えてください」と言うと、「ダメ、ワタシノイトガナクナリマス」と机をバンバン叩いて怒られる。最終的にはくださるのだけれど、私たちは幼心にすごく怖かった。でもそのシスターが大好きでした。

上杉 私が印象深いのはある日本人のシスター。何ごとに対しても「あなたはどう思う？」と意見を求められたので、わからないなりにいろいろなことを考える機会になりました。

島上 それは勉強になるよね。私が英語教師になるきっかけをつくってくれたのが、小学校の頃に出会ったイギリス人のシスター。日本語ができないから私たちが分かっても分からなくても英語で話されるの。もちろん、こっちは日本語で答えるのだけれど、おかげさまでヒヤリングには自信ができました。

上杉 本場にいろんな国籍のシスターがいりましたし、生徒たちの



「教師生活を終えて」 島上きく先生

授業中、生徒の目が輝き授業に「食いついてきた」って感じる時達成感がありました。学習面でも心理面でも教え子の成長が楽しみでした。また、生徒を叱っているうちに「これって私のやっていることと一緒にやん」って感じになり、生徒から指摘されてわかる部分もあり、自分自身も生徒とともに成長できました。

国籍もいろいろ。足の不自由な生徒がいても、みんな一緒に楽しくって感じだったよね。

島上 世の中ってそれが自然なものだね。

島上 しょうちゅうシスターや先生方と病院や福祉施設を慰問し、お手伝いをしたり、歌を歌ったりしていました。

上杉 親の同窓会「友の会」がきっかけなのも珍しいみたい。これは今に至るまで続いていて、チャリティーデーで手作り作品を出しておられます。

島上 うちの母はバザーの商品

を手作りするのが仕事みたい。一年中がんばっていましたが、ほかのお母さんたちと学校で集まってセーターに刺繍したり、エプロンを作ったりするのが楽しかったみたい。

上杉 学校でパーティーするのことも多かったよね。

島上 クリスマスをはじめ度々よね。管区長が来られた時などもね。船で帰国される時、授業を止めて、お見送りに行ったことを覚えておられる？

上杉 もちろん！船内も案内してもらったよね。最後はテープを投げてお見送りしたのが感動的

でした。それに美術館や博物館で話題の展覧会があると、必ずみんなで見に行っていたよね。

島上 映画もよくみせてもらって、お寺なんかもいろいろ連れてってもらったね。

学院で結ばれた絆を一生のタカラモノにしてほしい

——アットホームな学院の雰囲気

気が伝わってきます。少人数ならではの良さは？

島上 小学1年の時は10人。2期目に20人ぐらい入ってきたの

で、やつとドッジボールができたの(笑)。以来、小学校の1期生と2期生は仲が良く、その関係はずっと続いています。

上杉 今もそうだけど、この学校はクラス内での人間関係が難しかったら、先輩、後輩で仲良くなつて救われる場合も多いよね。クラブや行事も一緒だったし。

島上 そういえば書道の先生がすごく熱心でよく活動したね。

上杉 そうそう。私たちの作品にまで豪華な表装をしてくださったから、今でも残っていますよ。

島上 家に飾っているけど、息子が「りっぱな掛け軸だね」って言うってくれたから、家族ぐらいならはごまかせるんだと思った(笑)。

——先生方から見て、聖母被昇天の生徒はどんな子たちですか？

上杉 井の中の蛙というか、怖いモノ知らずってところあるよね。それがいいところもあるの。でも正義感が強く、素直でいい子たちばかりですね。

島上 しかも、自由でのびのびとしている。仮にちよっぴりいじわるをしたとしても陰湿にならず、「その辺で止めておこうよ」という雰囲気になるんです。また、いろんな役を頼まれて不安だとは思いますが、だれもが嫌がらずに引き受けてくれるので、

実際にやればみんなきちんとできるのよね。

——最後に在校生へ一言お願いします。

上杉 今日の答辞で、「ここでみんなと出会えたのは奇跡だ」と言っていました。私が本当にそのとおり、「決して偶然ではないの」。何か見えない力で結ばれているのだと思います。私と島上先生たちのように、一生の友だちになるのだから絆を大切にしてほしいですね。

島上 本当にそうよね。そんな奇跡で出会っているのだから、今、ここにいることも大切にしたい。この学校を誇りに思い、ここで手に入れられるもの、経験できることをどんな欲に全部手に入れてほしいです。



「お気に入りの場所」

上杉先生「当たり前ですが、私たちの夢をいっぱい詰め込んだ図書館です」
島上先生「聖堂の南側にある大きな木の下でおしゃべりするの好きでした」



学院長 Sr.中山のお話より



2011年2月14日(月)中高全体朝礼でのSr.中山のお話より抜粋

今日は2月14日、「バレンタインデー」ですね。みなさんは今日みなさんの大事な「誰かさん」にチョコレートプレゼントする予定はあ
るでしょうか。

さて、そのバレンタインデーの謂われについて少しお話ししまし
う。実はカトリック教会に聖バレンティヌスという聖人がおられる
のです。3世紀頃の聖人で、その頃
ローマ帝国は皇帝クラウディオス
のキリスト教迫害下にありまし
た。クラウディオスは、愛する人を
故郷に残した兵士がいると士氣
が下がるという理由で、ローマで
の兵士の婚姻を禁止していたそ
うです。キリスト教司祭だったバ
レンティヌス(バレンタイン)は秘
密で兵士を結婚させたので捕ら
えられ、処刑されたとされていま
す。処刑の日は、古代ローマで豊作
を祈願するルベルカリア祭の前日
にあたる2月14日選ばれました
。その祭りの日に女性が愛の手
紙を書いてつばに入れ、手紙を受
け取った男性がその女性をデート
に誘うという習慣があり、バレン
ティヌデーはそれに結びつけられ
たとされています。このためキ
リスト教徒にとっても、この日は
祭日となり、恋人たちの日となっ
たというのが一般論です。しかし、
今ではこのことにはつきりとした
歴史的な裏付けがないために公
式なカトリック教会の聖人のお祝

い日からははずされています。日
本では1960年前後から、ある
チョコレート会社の商業戦略によ
って「バレンタインデー」として、
手紙の代わりにチョコレートを贈
ることがブームとなりました。

さてここで、女性であれ、男性で
あれ、人に心から喜ばれること
でどんなことか考えてみたいと思
います。シスターは以前次のよう
なお話を聞いて、本当に美しい話
だなと感動したことがあります。
それは熱心なクリスチャンで、今
はある大学の学長をしておられる
柏木哲夫先生と言う方のお話で
す。先生は、大阪大学医学部を卒
業したお医者さんで、アメリカ留
学の後、1972年に(阪急京都
線 淡路駅に近い)淀川キリスト教
病院に精神神経科を設立。84年
に同病院にホスピスを開設し、関
西ではターミナルケアの第一人者
として活躍された先生です。その
先生が長年、病気で苦しむ人々、そ
してその最期を看取る家族の方々
と接した体験から確信されたこと
をお話してくださいました。先生
のお話を少し短くしてみなさん
にお伝えします。

ご病人と家族との関係をあらわす
言葉でもあると思います。
定年になって、これからは一緒
にゆつくりと過ごそうと思ってい
た矢先に、ご主人がガンを患って
60そこそこ亡くなっていかれた
時、奥様のご主人に対して最期に
言われた「ありがとう」と言う言
葉。

また、これからは自分も少し妻
を助けて家のことでもしなければ
ば、と思っていた時に、5人の子ど
もを育て上げ、肺ガンを患って亡
くなっていった奥様に対してご主
人が最期に言われた「ごころうさ
ま」と言う言葉。おそらく奥様が家
庭にあつてされたすべてのこと、子
育てや家事に対しての「ごころう
さま」ではなかったかと思えます。

次に「ごめんなさい」と言う言
葉。何があつたかはわかりませ
んが、ご主人に対して奥様が言わ
れた言葉です。おそらくもっと早く
病気の事に気づいてあげていた
ら、あなたの命を救えたかも知れ
ないのに、それができなくて「ごめ
んなさい」と言われたのかも知れ
ません。

言い換えれば「ありがとう」は感
謝の言葉。「ごころうさま」はねぎ
らいの言葉。「ごめんなさい」は謝
罪の言葉。どれも相手を思いやる
気持ち、愛がなければ言えない言
葉です。この3つの言葉は臨終の
時だけでなく、日常の人間関係で

もとても大切な言葉です。心から
「ありがとう」と言える人間関係。
「ごころうさま」とねぎらうこと
のできる人間関係。謝るべき時に
は「ごめんなさい」と言える人間関
係。この3つの言葉を日常の言葉
として、互いに自然に言い合うこ
とのできる人間関係を生きる人た
ちは、どんな時も喜びに満たされ
ていることでしょう。このような
人間関係を目指して日々努力する
時、神さまに喜ばれる人間関係と
なります。」と、このようなお話を
なさいました。

バレンタインデーのチョコレ
トは半ば、淡いあこがれと遊び心
を秘めた単純な習慣かもしれませ
んが、禁制を犯してまでも、密かに
ローマ兵士を結婚させた聖バレン
ティヌスは、男女が真に深い愛で
結ばれることを願ってそうしたに
違いありません。「ありがとう」「ご
ころうさま」「ごめんなさい」で言
い表された深い人と人の関わり、
そこにシスターは「人間愛」の尊
さ、美しさ、痛みさえも感じます。

愛は決してチョコレートだけで
表されるものではないことをみな
さんはよく知っています。今日、こ
のような機会に、チョコレートと
「ありがとう」「ごころうさま」「ご
めんなさい」の言葉からみなさん
が、神さまが望みになる真の人間
愛とは何かを考えてくだされば
嬉しいのです。

